

千葉市高齢者保健福祉推進計画（第8期介護保険事業計画）【計画期間：令和3年度～令和5年度】における計画事業の令和5年度の取組み及び評価について

基本理念：支えあいがやすらぎを生む、あたたかなまちへ

基本目標：高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る

～地域共生社会の実現を念頭に、2025年・2040年を見据えた地域包括ケアシステムの構築・強化を目指す～

1 計画事業の進捗状況及び評価について

【自己評価基準】

◎（達成率80%以上もしくは達成できた）

○（達成率60%～79%もしくはおおむね達成できた）

△（達成率30～59%もしくは達成はやや不十分）

×（達成率29%以下もしくは全く達成できなかった）

基本方針	主要施策	事業数	自己評価			
			◎	○	△	×
I 高齢者が生きがいを持って元気であるための地域づくりを目指して～健康寿命の延伸～	(1) 生きがいづくりと社会参加の促進	9	3	6	0	0
	(2) 健康づくり	9	5	4	0	0
	(3) 自立支援と重度化防止	14	9	2	3	0
	計（件）	32	17	12	3	0
	事業の進捗に関する評価状況（%）		53.1%	37.5%	9.4%	0.0%
II 支援が必要になっても自分らしく地域で暮らし続けられるまちを目指して	(1) あんしんケアセンターの機能強化	5	4	1	0	0
	(2) 地域ケア会議の強化	3	3	0	0	0
	(3) 切れ目のない在宅医療・介護連携の推進	8	6	0	1	1
	(4) エンディングサポートの推進	3	3	0	0	0
	(5) 安心して暮らせるための地域等による支援	13	6	6	0	1
	(6) 災害・感染症対策	9	4	2	3	0
	計（件）	41	26	9	4	2
	事業の進捗に関する評価状況（%）		63.4%	21.9%	9.8%	4.9%

基本方針	主要施策	事業数	自己評価			
			◎	○	△	×
III だれもが安心できる認知症にやさしい社会を目指して（認知症施策推進計画）	(1) 認知症への理解の促進	6	4	2	0	0
	(2) 認知症予防に向けた活動の推進	2	1	0	0	1
	(3) 医療・ケア・介護サービス体制の向上	10	9	1	0	0
	(4) 認知症バリアフリーの推進と認知症の人の社会参加支援	4	2	1	1	0
	(5) 権利擁護の充実	4	1	3	0	0
	計（件）	26	17	7	1	1
	事業の進捗に関する評価状況（%）		65.4%	27.0%	3.8%	3.8%
IV 必要なサービスが必要としている高齢者に届く安心なサービス提供体制を目指して	(1) 介護保険施設等の計画的な整備	3	1	0	0	2
	(2) 在宅支援サービスの提供体制の整備	1	0	0	0	1
	(3) その他介護保険外サービス等による高齢者の居住安定の確保支援	7	3	3	1	0
	計（件）	11	4	3	1	3
事業の進捗に関する評価状況（%）		36.3%	27.3%	9.1%	27.3%	
V 適正な介護を提供するために	(1) 適正な介護サービスの提供	2	1	0	1	0
	(2) 公正で効率的な介護認定体制の構築	3	3	0	0	0
	(3) 介護人材の確保・資質の向上及び定着の支援	10	6	1	2	1
	(4) 低所得者への配慮	2	2	0	0	0
	計（件）	17	12	1	3	1
	事業の進捗に関する評価状況（%）		70.6%	5.9%	17.6%	5.9%
	合計（件）	127	76	32	12	7
事業の進捗に関する評価状況（%）		100%	59.9%	25.2%	9.4%	5.5%

2 計画目標を達成できなかった取組事業について (7事業)

項目	第8期における具体的な取組事業名(所管事業名)	目標(事業内容)				令和5年度実績と課題及び対応策
		指標項目(単位)	(R3)	(R4)	(R5)	
Ⅱ(3)2	訪問看護ステーションへの支援	在宅医療・介護連携の中核を担う訪問看護ステーションの運営を支援するため、労務管理・人材育成など、事業経営の研修を実施します。ステーションに講師が直接出向いて個別の助言や相談支援を行います。				<p>【実績】</p> <p>訪問看護ステーションの現場ニーズにより応じた研修を実施するため、県訪問看護ステーション協会に委託し、以下の事業を実施した。経営マネジメントに関する内容だけでなく、精神疾患患者に対する訪問看護など、専門的なテーマを扱う研修を実施したほか、研修講師による運営、経営に関する個別相談(1件)を実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>ターゲットとしている訪問看護ステーションは業務多忙による研修会自体への参加が少ない傾向にあるため、研修・個別相談ともに参加しやすいよう配慮する必要がある。</p> <p>【対応策】</p> <p>県訪問看護ステーション協会と連携・相談しながら、積極的にオンラインやハイブリット方式で研修を実施し、多忙な訪問看護ステーション関係者での参加しやすいよう工夫する。</p>
		個別相談指導(事業所数)	5	5	5	
Ⅱ(5)9	高齢者等を対象者としたペットによる生きがいづくり	高齢者が生きがいを持ち、安心してペットと生活できる環境をつくるため、一時飼育ボランティアへの高齢者の参加促進や、高齢者が将来ペットを飼育できなくなった場合に備えた支援をモデル的に実施します。				<p>【実績】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、協定締結および事業実施を延期した。</p> <p>【課題】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、施設との協定締結などの事業が進んでいない。</p> <p>【対応策】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、早期の事業開始に向けた準備を進めながら、事業開始後の必要な対応について検討していく。</p>
Ⅲ(2)1	認知症の早期発見の重要性を含む認知症予防についての理解促進	認知症の早期発見の重要性をホームページやパンフレットにより周知するとともに、市医師会が作成した認知症の簡易検査を行うチェックリストを市ホームページで実施いただくことで、認知症の早期発見・対応に繋がります。				<p>【実績】</p> <p>千葉市認知症ナビや認知症ケアパスを利用し、認知症の早期発見・早期対応の必要性について周知した。また、認知症ナビにおいて、認知症の簡易チェックリストを掲載し、早期の相談や受診につなげた。 ・簡易検査(チェックリスト)実施者数:1,913人</p> <p>【課題】</p> <p>簡易検査(チェックリスト)実施者数について、昨年度よりも倍増したが、目標値との開きが大きい。周知方法を見直し、より多くの市民へ利用を促進していくことが課題である。</p> <p>【対応策】</p> <p>認知症ケアパス等あわせ、認知症サポーター養成講座や認知症介護講習会の機会を通じ、積極的な周知を図る。令和5年10月より、医師会等との協働によるもの忘れチェック事業を開始しており、当該事業を通じ認知症の早期発見に向けた取組みを推進していく。</p>
		認知症初期スクリーニング簡易検査実施者数(人)	6,000	8,000	10,000	
Ⅳ(1)2	認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)の整備	待機者が解消されていないことを踏まえ、認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域バランスを考慮して計画的に整備します。				<p>【実績】</p> <p>(看護)小規模多機能型居宅介護事業所の公募において、認知症対応型共同生活介護事業所を併設することを可能として事業者募集を行ったが、応募がなかった。</p> <p>【課題】</p> <p>公募に申請する事業者がない。</p> <p>【対応策】</p> <p>・令和6年度の(看護)小規模多機能型居宅介護事業所の公募においても、それに併設される認知症対応型共同生活介護事業所の整備を図る。また事業者が応募しやすいよう、要件の見直しを行う。 ・引き続き認知症対応型共同生活介護事業所の整備に補助金を活用する。</p>
		整備量(募集数)(人)	27	27	27	

項目	第8期における具体的な取組事業名(所管事業名)	目標(事業内容)				令和5年度実績と課題及び対応策
		指標項目(単位)	(R3)	(R4)	(R5)	
Ⅳ(1)3	介護専用型有料老人ホームの整備	空床がある上に市外からの入居者が多くを占めていることから、公募を行う際には、地域密着型に限定するなど、ニーズの動向をふまえて実施します。				<p>【実績】</p> <p>地域密着型特定施設として公募を行い、1事業所の応募があったものの、事業用地の確保ができないなど事業計画を立てることができず、辞退となり、選定に至らなかった。</p> <p>【課題】</p> <p>例年応募はあるものの、本申請には至っていない。</p> <p>【対応策】</p> <p>本申請に至っていない理由は事業者による土地の確保ができないことが理由のため、対応は困難ではあるが、引き続き公募手法の検討を行っていく。</p>
		整備量(募集数)(人)	80	160	80	
Ⅳ(2)1	地域密着型サービス事業所の整備	地域包括ケアシステムを構築する上で重要なサービスの一つとして地域密着型サービス事業所の計画的な整備を行います。 ①小規模多機能型居宅介護(看護小規模多機能型居宅介護を含む):全ての日常生活圏域に1か所以上、早期に整備されることを目指します。 ②定期巡回・随時対応型訪問介護看護:各区に複数の事業所が早期に整備されることを目指します。				<p>【実績】</p> <p>①(看護)小規模多機能型居宅介護は、整備空白圏域を対象とした公募を行い、建設費及び開設準備経費を助成し整備を進める計画だったが、応募がなかった。 ②定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、整備空白区を対象とした公募を行い、建設費及び開設準備経費を助成し整備を進める計画で、事業者の選定まで行ったが、事業者が辞退した。</p> <p>【課題】</p> <p>①、②ともに、計画どおり整備が進んでいない。</p> <p>【対応策】</p> <p>①、②ともに、令和6年度の公募において、事業者が応募しやすくなるよう要件の見直しを行う。</p>
		①整備量(募集数)(か所)	1	1	1	
		②整備量(募集数)(か所)	1	1	1	
Ⅴ(3)2	介護職員の定着に向けた取組み	県の基金を活用し、外国人職員を含む介護職員の働きやすさ向上を目的とした宿舍を整備する際の費用を助成します。				<p>【実績】</p> <p>前年度に事業量調査を実施し、1施設から活用希望があった。対象者は、施設敷地内にある厨房棟の機能を移転し、当該建物を改修することで、宿舍とする予定であったが、資金計画の変更等により、厨房機能の移転が困難となり、辞退となった。</p> <p>【課題】</p> <p>令和5年度は、辞退により、実績0となった。</p> <p>【対応策】</p> <p>引き続き、希望者に対して費用助成を行う。</p>